

共生の視点を踏まえた体育授業を目指して

中学校におけるアダプテーション・ゲームを用いた実践

三好 健太 (和歌山大学教職大学院)

1. 目的

本研究の目的は、共生の視点を踏まえたインクルーシブ体育の実現ために、個別のルール調整と戦術学習の特性を併せ持ったアダプテーション・ゲームを体育の授業で取り入れることによって、全員が授業に参加でき、ゲームを楽しむことができる体育授業の実現を検討したものがある。

2. 研究方法

- 1) 対象者対象者:W県F中学校におけるアンケート調査の結果が得られた128名とした。
- 2) 調査方法:生徒の共生体育に対する態度の変化を明らかにするために梅澤ら(2021)の先行研究を元にアンケートを作成し単元の前後に実施した。

3) 分析方法

1. 共生体育態度尺度

アンケート調査を分析項目とした。全てのデータは単元前と単元後と比較し、対応のないt検定を実施した。いずれも有意水準5%未満で有意差ありとみなした。

2. 振り返りシート

単元前後における振り返りシートに記述された内容について計量的テキスト分析ソフトKHCoder3.0を用いて分析を行った。

3. 結果及び考察

1. 共生体育態度尺度の結果(図1)から、リーダーシップと排他的雰囲気がある有意な結果を示した。

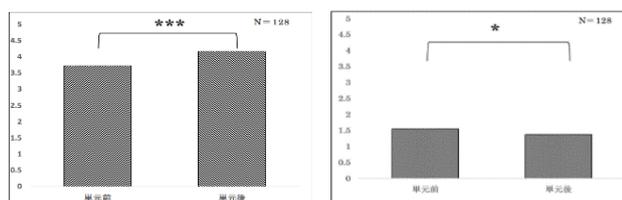


図1 共生体育態度尺度の結果

アダプテーション・ゲームを取り入れたことで生徒間においてアダプテーションに関する自分の意見を伝えたことによって、コミュニケーション能力と受容感が高まり、排他的な雰囲気を薄れていったことがリーダーシップと排他的雰囲気が有意な結果を示す結果に至ったと考えられる。

2. 振り返りシートの結果

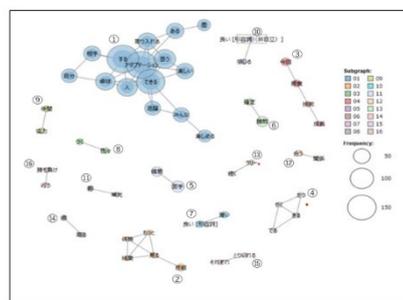


図2 アダプテーション・ゲーム導入後

アダプテーション・ゲーム導入後は、アダプテーション・ゲームを用いたことで相手との力関係の変化を楽しみながらゲームに取り組むことやアダプテーション(調整)を踏まえたルールや仲間の特徴から自分自身がどう動けばよいか考え行動するなど戦術的学びみられた。

4. 結論

本研究では、アダプテーションによって授業に参加することができ力関係が変化するゲーム展開を楽しむことや様々な差を包括し、共生を意識した体育授業を学ぶ機会につながったと考えられる。

5. 参考文献

梅澤秋久・村瀬浩二・坂本光平(2021),「共生の視点を重視スポーツ庁した小学校高学年の体育における態度尺度の開発」, スポーツ教育学研究, 41 巻第 2 号, p 1-20